



令和5年11月30日  
京都市保健福祉局  
担当：障害保健福祉推進室  
電話：075-222-4161

「障害者差別解消法が改正されます！」  
をテーマに、街頭啓発等を行います！

## 令和5年度障害者週間の取組

～12月3日～9日は「障害者週間」です～

京都市では「障害者週間」（12月3日～9日）の取組として、市民の皆様には障害のある方への正しい理解と認識を深めていただき、障害のある方の自立と社会参加を促進するため、街頭啓発を行います。

また、門川市長が障害福祉施設の利用者との交流を深めるため、障害のある方の就労や地域生活を支援している「京都市紫野障害者授産所」を訪問します。

併せて、「心の輪を広げる体験作文」及び「障害者週間のポスター」の京都市入賞作品を発表します。

### 1 街頭啓発キャンペーン

#### (1) 概要

令和5年度テーマ

「障害者差別解消法が改正されます！」

障害者週間に合わせ、当事者等の方々が、各区の施設や主要バスターミナル及び地下鉄駅構内等で啓発メッセージ等を記載した紙製クリアファイルを配布し、街頭啓発を行います。

#### (2) 日程・場所

別紙1のとおり

#### <参考>紙製クリアファイルデザイン（A5サイズ）

12月3日から9日は、障害者週間です

障害者差別解消法が改正されます！  
令和6年4月から、民間事業者も  
合理的配慮の提供が義務化されます！

**障害者差別解消法とは**

全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、障害を理由とする差別の解消を推進することを目的として、制定されました。

**合理的配慮の提供とは**

障害のある人から、社会の中にあるバリアを取り除くために何らかの対応を必要としているとの意思が示されたときには、負担が重すぎない範囲で対応することが求められます。（例えば、聴覚障害のある方に対し、手話や筆談に応じるなどです。）

**ヒアリングループマーク**  
補聴器等を使用される方の「聞こえ」を支援するヒアリングループが設置されていることを示すマーク。  
※ヒアリングループ  
ヒアリングループを使用すると、マイクを通じた音声を、補聴器等に直接伝えることで、正確に聞くことができます。

**ハート・プラスマーク**  
身体内部に障害のある方を示す、国内で使用されているマークです。  
内部障害(心臓、呼吸機能、じん臓、膀胱、膵臓、小腸、肝臓、免疫機能)のある方は外見からは分かりにくいため、内部障害への理解と配慮を求めているものです。

京都市障害保健福祉推進室  
キャラクター エミー

## 2 門川市長による障害福祉施設の訪問

### (1) 訪問日時

令和5年12月7日(木) 午後1時50分～(30分程度)

### (2) 訪問施設

京都市紫野障害者授産所(京都市北区紫野雲林院町44番地の1京都市北合同福祉センター1階)

ア 運営法人 社会福祉法人 京都総合福祉協会

イ 施設の概要

京都市内で最初の身体障害者授産施設として昭和56年12月に京都市北合同福祉センター1階に開所されました。

現在は、生活介護及び就労継続支援B型の多機能型事業所として、フェルトやビーズ雑貨の製作・販売、焼き菓子等の食品製造加工等を行われています。

また、地域のふれあい祭りでの出店や、小学校や大学で障害者スポーツを通して交流を行う等、地域との交流・連携にも積極的に取り組んでおられます。

### (3) 訪問内容(予定)

市長が施設内を見学後、利用者との交流を行います。

## 3 「心の輪を広げる体験作文」及び「障害者週間のポスター」京都市入賞作品の発表について

### (1) 心の輪を広げる体験作文

高校生部門 最優秀賞 【該当作品なし】

優秀賞 浅田 理生 さん(関西創価高等学校)「母」

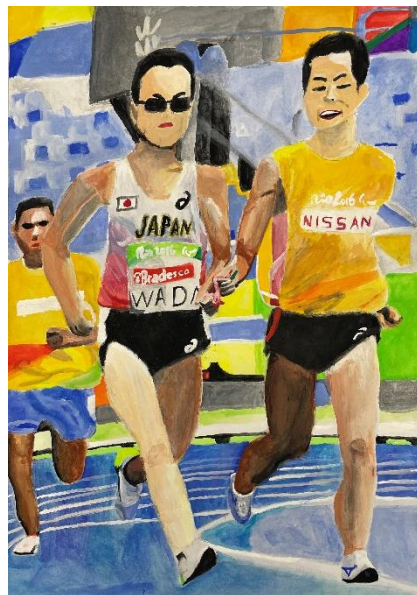
※ 作品は別紙2のとおり。

※ 小学生・中学生・一般部門は該当作品なし。

### (2) 「障害者週間のポスター」

中学生部門 最優秀賞 【該当作品なし】

優秀賞 岸田 維心 さん(市立七条中学校)「RUN」



※ 小学生部門は該当作品なし。

### (3) その他

表彰式等は開催しません。

令和5年度「障害者週間」市民啓発事業  
実施場所等

区	実施予定場所	実施日時
北	北区役所、北図書館、北青少年活動センター、区内の学校、福祉施設他に配架	障害者週間期間
上京	ポスティング	12月2日～9日の間
左京	高野イズミヤ前周辺道路	12月2日(土) 午後2時～3時
中京	三条大宮公園周辺・三条会商店街	12月2日(土) 午後1時～2時
東山	四条通川端西南角配布 施設配架 ポスティング	12月3日(日) 午前10時～11時
山科	山科駅ターミナル(地下鉄・京阪駅前・JR山科駅付近)	12月2日(土) 午前10時～11時
下京	京都駅前地下街 京都ポルタ	12月2日(土) 午前11時～正午
南	南区社協、関係機関施設17か所に配架	障害者週間期間
右京	イオンモール京都五条 (社協のイベントにて配布)	12月1日(金) 午前11時～正午
西京	区役所、洛西支所、西京区社協、ホテルエミナースに配架	障害者週間期間
伏見	ポスティング	障害者週間期間

## 令和5年度「心の輪を広げる体験作文」京都市入賞作品

最優秀賞 該当作品なし

優秀賞 「母」 浅田 理生（関西創価高等学校）

私の母は目に病気を患っている。病氣の名前は網膜色素変性症。この病氣が進行すると視野が狭くなっていき、最後には視野が奪われ失明する。さらに治療法はまだ確立されていない。私が生まれたときには母の視野はとても狭くなっていた。どのぐらいの視野なのかという、片手の人差し指と親指をくっつけてつくった円ぐらいの視野だ。今も母の視野はそのぐらいだ。だから私は物心がついたときから母がどこかに出かける際にはいつもつきそって母の目の代わりをしていた。母が町内の役員の会合があるときも、学校で懇談会があるときもいつも母の目となっていた。だから母の目となり母についていくのが私にとっての普通だった。

しかしそれがみんなにとっては普通のことではないと小学校4年生ぐらいの時に気づいた。なぜかという母が私の腕をつかみながらあるいているのを見かけると近くに住んでいる人たちから「えらいね」とほめられることが増えたからだ。もちろんほめられるのはうれしかったが私としてはなんでこんなにほめてくれるのだろうと思っていた。その時に私は母に目に病気を患っていること、視野がとても狭くなっていることを初めて聞いた。これまでも目の病氣で見えにくいことはしっていたが、視野がとても狭くなっていることを理解し視野障がいと聞いたときびっくりした。このことを聞くと私の疑問は晴れた。だからもっと母のお手伝いもしようと思った。

しかし私が中学校に入学すると部活に入部したり勉強をしたり、友だちと遊んだり私の生活が忙しくなると母につきそうことができなくなっていった。そこで私が感じたのは人々の優しさだ。母が母の友だちと遊ぶときにはその友だちが母につきそってくれたり、母が用事があったどこかに行くときにも勇気を出して声をかけてくれる人がいたりなどと人々の優しさを母を通して感じる事ができた。私は母につきそうことができなくなってしまふ分、母が誰かに優しくしてもらった分困っている人がいたら声をかけてお手伝いをしようと思った。だが、私は元々明るい性格ではなく声をかけるときに勇気がでないこともたくさんあった。勇気をだして声をかけても遠慮されることもあった。そんなことが続いている中、私がい物にいくと白杖を持っている方に会った。その方は白杖について歩いていた。私はその方に声をかけようと思ったが勇気をだせずに少し迷ってしまった。しかし、母が困っているときに声をかけてもらっても嬉しいといっていたのを思いだして私は勇気をだして声をかけることができた。私はなんと言われるかがとても心配でどきどきしていた。声をかけると白杖を持っていた方は、笑顔でありがとうね、と言ってくれた。助けてくれた人がありがとうと言うのは普通のことかもしれないが私にはその言葉がとても嬉しかった。そし

てその方に声をかけることができ自分も成長できたと思う。その方と分かれるときに言ってくれた言葉がとも心に残っていて、今も私が勇気がでずにうじうじしてるときに勇気をくれる言葉だ。それは、「今日は本当にありがとうね、助かったよ。君は私が障がいをもっているから助けてくれたのかもしれない。もちろんそれも、とても大切なことだよ、ありがとうね。でもね、本当は障がいがある、ないに関係なく誰かが困っていたら助けることが私は大切だと思うんだよ。そういう人が増えたらもっとみんなも生きやすくなると思うんだよ。」という言葉だった。私はその言葉をきくまでは、障がいをもっていている人はかわいそうだから助けなくちゃいけないと思っていた。けれどもそれは間違いだった。本当は障がいがある方もない方も関係なく困っていたら助けるべきだと気づくことができた。

私の母は障がいをもってている。そんな母から人を助けることの大切さを学んだ。今は障がいをもつ人に心ないことを言う人もいてしまう。私はそんな人の心が嫌だ。なぜ同じ人なのに少し自分と違う特徴をもつからというだけで暴言を吐けるのだろうか。そんな人たちがいなくなると差別がない世の中になりたい。しかし今、私はただの高校生でしかない。私が何か発言したところで何も変わらないと思う。だから私は先生をめざしている。そこで私の経験を通して少しでも障がいをもつ方への差別や偏見を無くせればいいなと思う。私はこれからも私が理想とされるような素敵な先生になるために日々困っている人がいれば助けていきたいと思う。